

学校教育目標	知	自ら学び、自分の考えを深める子を育てます。						
	徳	自分のよさを発揮し、他の違いを認め合いながら共に活動できる優しい心を育てます。						
	体	自分や他の生命と体を大切にすることを育てます。						
	公民開	地域の人々や自然とのかかわり中で、生き方を学び、共に生きようとする心を育てます。 様々な社会の変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。						
学校概要	創立 141 周年	学校長	海老澤孝代	副校長	片岡ひかり	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 6
	児童生徒数: 668 人	主な関係校: 旭北中学校、今宿中学校、鶴ヶ峰中学校						

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「言語能力」 「協働で課題解決する力」 「心身ともにたくましく生きる力」	旭北中学校 上白根小学校 白根小学校	高い自尊感情をもって、自他を大切にし、目標に向かって努力できる子ども 改めてブロックの子どもたちの、特色(強みと弱み)を共有し、身に付けてほしい資質・能力を明らかにする。 特に他者との適切な関わり方や自己表現、目標の実現に向けて努力し成し遂げる力については、成長段階にあわせた資質・能力を整理し、取り組む内容を各校の全体計画に位置付ける。

中期取組目標	○学校教育目標を実現するために、教職員、保護者、地域が三位一体となって、子どもが安心して楽しく学べる学校を目指す
	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもが、安心して豊かに学校生活を送れるように、健やかな体と心を育む場を大切にする。 一人ひとりの子どもが学習の楽しさを知り、豊かな学び合いができるような授業づくりを推進し、学力の向上を図る。 教職員の協力協働体制を確立し、相互に啓発・連携する学校運営組織をつくる。 家庭や地域、近隣幼・保・小・中や関係機関と連携し、信頼に応える学校づくりを進める。

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①児童福祉委員会を中心に、あいさつ運動を継続的な活動にする。②感染症の状況に応じて、たてわりグループの活動に取り組むことで、互いを認め合えるようにする。③学年に応じた話し合い活動を進め、協力して取り組むことができるようにする。
健やかな体	①年間を通して長縄の集会を計画し、めあてに向かって取り組むことで、運動を通してクラスや学年、全校での一体感や達成感が得られるようにする。②食育を通して、作物の栽培や食文化、栄養に興味をもち、食生活を大切に考えることができるようにする。
確かな学力	①話の聞き方についての指導を充実させ、対話によって学びを深められるようにする。②身に付けた力を生かして課題に取り組み、主体的に取り組むことで解決できる学習を積み重ね、学ぶ楽しさや達成感を味わえるようにする。
児童生徒指導	①全職員で「学校のきまり」やスタンダードを共有するとともに、月ごとに生活目標やクラスごとの重点指導目標を確認し、共通理解のもとで指導にあたるようにする。②児童支援専任や指導部を中心に、教職員で情報を共有し、問題行動の防止、早期発見、適切な対応に努める。
特別支援教育	①特別な支援が必要な子どものよさが認められ、安心して学校生活を送ることができるよう全職員で理解に努め、支援する。②支援を必要とする児童について、個別の教育支援計画や指導計画をたて、必要に応じて外部機関と連携する。
学校教育への保護者の参画	①感染症の状況に応じて、保護者には何らかの形で教育活動に協力してもらう。②学校評価はIT化を定着させ、保護者が回答しやすいパソコン等を使ったアンケートを実施する。また自動集計を活用し、教職員の負担軽減を進める。
地域連携	①開かれた学校を目指し、学校便りやHPを使って情報提供に努める。②地域コーディネーターを活用し、地域の人材を活用した学習を進める。③感染症の状況に応じて、ゆりのき会の活動を再開させ、地域の意見や考えを大切にする。
学校運営協議会	①学校運営協議会の開催方法を工夫し、内容を充実させ、児童や教職員の具体的な姿を基に意見交換を行う。②学力学習状況調査など、具体的なデータを示し、学校の課題を共有する。
いじめへの対応	①児童一人一人が安心して過ごせるように、道徳教育全体計画、「豊かな心育成」推進プラン、YPプログラムなどを活用する。②教職員の情報交換を密にし、指導部を中心にいじめ防止対策委員会を定期的に開き、いじめの防止、早期発見、適切な対応に努める。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①職員室グループウェアを活用し、情報共有の即時性と確実性を高める。②打合せの精選、会議時間の短縮とペーパーレスを図り、職員の負担軽減を進める。③メンター研の日程や内容を共有し、全職員で人材育成の意識を持つ④評価時間の確保のため評価処理週間を設定する。